

熊本蔓延防止宣言下における令和3年度熊本県高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会の
新型コロナウイルス感染症防止対策についてのガイドライン

令和3年5月17日

熊本県高等学校体育連盟ハンドボール専門部

令和3年5月14日付熊本県高等学校体育連盟発「熊本蔓延防止宣言下における令和3年度熊本県高等学校総合体育大会並びに令和3年度定時制・通信制総合体育大会の感染防止対策について」の基本的な方針に則り、以下のとおりに競技を実施する。

1 基本的な方針

- (1) 無観客での開催とする（一般及び保護者の観戦は不可）。
- (2) 大会への参加については、顧問及び登録選手とする。ただし、各学校2名（生徒又は教職員）まで記録撮影として観客席（競技フロアは入場不可）に入ることを可とする。
なお、観客席が十分とれない会場は、競技に支障のない範囲で記録撮影者の競技フロアへの入場を特別に可とする。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関し、以下のア～カに該当する場合は大会に参加できない。
 - ア 感染が判明し、治癒していない場合
 - イ 濃厚接触者に特定され、起算日から2週間経過していない場合
 - ウ PCR検査等を受けて、陰性が判明していない場合
 - エ 発熱等の風邪症状や息苦しさ、倦怠感、味覚・嗅覚障害等の症状がみられる場合
 - オ 同居家族に発熱等の風邪症状がみられる場合
 - カ その他、保健所から参加を控えるよう指示があった場合

2 大会の参加規定

- (1) 部員（マネージャーを含む）の参加は、同意書（別紙1）を提出したものに限る。また、顧問等は証明書（別紙2）を専門部に提出する。

3 感染防止対策規定

- (1) 主催者の責任において、下記の感染防止対策を講じる。【主催者対策】
 - ア 大会当日前までに37.5℃以上の発熱が3、4日続いた日があったり、極度のせき・倦怠感などの症状があったものについては大会参加及び大会会場への来場を断る。
 - イ すべての関係者（役員・審判員・補助員・顧問・部員）に、事前の健康観察及び検温を実施させ、37.5℃以上の発熱者や体調不良者への大会参加及び大会会場への来場を断る。
 - ウ 来場した大会関係者、学校関係者、報道関係者は会場入口で感染防止チェックおよび確認シート（別紙5）への記名を行う。また、必ず検温し、37.5℃以上の場合は入場を断る。
 - エ すべての来場者に、マスクを着用させ、こまめな手洗い・手指消毒・うがいなどを励行させる。また、消毒液を会場入り口等に設置する。
- (2) 顧問の責任において、下記の感染防止対策を講じる。【参加校対策】
 - ア 顧問・部員は、試合日毎に、検温を含めた健康観察を行い、確認シート（別紙3）を主催者に提出する。なお、顧問は大会実施中の参加部員の体調管理に努める。
 - イ 検温の結果、37.5℃以上の熱又は体調不良（発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）の部員がいた場合は、当該部員の大会参加及び大会会場への来場を自粛させる。

4 関係者から感染者または濃厚接触者が発生した場合の規定

- (1) 大会前及び開催期間中に関係者（役員・審判員・補助員・顧問・部員）から感染者または濃厚接触者が発生した場合、主催者は大会の実施を再検討し、場合によっては大会の実施を見送る。
- (2) 大会前及び開催期間中に顧問や部員から感染者または濃厚接触者が発生した場合、学校長は大会の参加を再検討し、場合によっては大会の参加を見送る。

5 大会参加時の留意事項

- (1) 選手はウォーミングアップ及び競技以外の場面でのマスク着用を徹底する。競技中のマスク着用についても選手の申し出があれば、競技ルールに則って可能な範囲で可とする。
- (2) 監督・審判員・大会役員・補助員については、原則、マスク着用を徹底する。
- (3) 飲食を伴う場面では、黙食、間隔、消毒、換気など特に留意する。
- (4) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- (5) 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保する（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）。
- (6) 参加者は、各自マイタオルを持参し、トイレや手洗い等時に使用する（トイレの布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しない）。
- (7) 試合中に大きな声で会話をしない。また、声援自粛、拍手推奨をお願いします。
- (8) 感染防止のため、主催者が決めた措置を遵守するとともに、大会当日も主催者の指示に従う。
- (9) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。

6 試合会場における感染防止対策

- (1) 役員及び補助員は必要最低限の人員で業務を行う。
- (2) 感染防止のための遵守すべき事項を整理し、適切な場所に掲示する。
- (3) 5の事項が遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- (4) 会場入場者にマスクの着用を徹底させる（競技中やウォーミングアップ時除く）。
- (5) こまめな手洗いを呼びかけ、手洗い場には石鹼（液体が望ましい）を用意し、可能な限りアルコール消毒液を必要個所に設置する。
- (6) 参加者にマイタオルを準備させ、タオルの共用をしないことを徹底させる。
- (7) 会場内の換気（窓やドアの常時開放）を徹底する。常時開放ができない場合は一定時間ごとの一斉換気を実施する。
- (8) 会場内のゴミ箱の使用を禁止し、ゴミの持ち帰りを徹底させる。
- (9) 喫煙所は設置しない。
- (10) 会場等で急に風邪症状の生徒が出た場合は、当該校職員が保護者及び学校管理職に連絡し帰宅させる。併せて、他の生徒等への健康観察を徹底させる。

7 各施設及び諸室の感染防止対策

- (1) 手洗い場所及び洗面所（トイレ）
 - ア 石鹼（ポンプ型が望ましい）を用意する。
 - イ 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
 - ウ 入口にアルコール等の手指消毒剤を用意する。
 - エ 手洗い後に手を拭くため、参加者にマイタオルの持参を求める。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。
 - オ 手洗い場やトイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する。
 - カ トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- (2) 更衣室、休憩・待機スペース
 - ア 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける（障がい者の介助を行う場合を除く）。
 - イ ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。
 - ウ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒する。
 - エ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。

(3) コート、ベンチ、オフィシャル

ア オフィシャル及び各チームベンチにアルコール等の手指消毒剤を用意する。

イ チームベンチの間隔にはゆとりを持たせ、密になることを避ける。

ウ オフィシャルはゲームの運営に必要な最低限の人数を配置し、試合毎に交代しながら運営に当たる。

エ モップーパーには、使い捨て手袋を着用させ、選手の汗等に直接触れないように工夫する。

オ 複数の参加者が触れると考えられる場所（ベンチ、ジャッジズテーブル、ゴールポスト、フロア等）については、試合毎に消毒を行う。

8 試合に参加する部員の留意事項

(1) 審判や選手同士の握手やハイタッチ等を実施しない。

(2) 試合中に「握手」「ハイタッチ」「肩を組む」など、競技以外の身体接触を控える。

(3) マイボトル及びマイタオルを持参し共有しない。

(4) 水・氷を溜めたクーラーボックスを共有しない。

(5) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離について配慮する。

(6) ベンチではマスクを着用し、会話を控える。

(7) 更衣室やシャワーを使用する際は、密集を避け、交代で使用する等の工夫をする。

(8) ミーティングは短時間で行い、密にならないようにする。

(9) 飲食は、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにする。

9 チーム（部員）の移動及び宿泊について

(1) 移動について

個人の車による移動を推奨する。試合のため往復の移動にバスを利用する場合は、過密状態にならないように運行計画を工夫し、各移動の前後にはバスの清掃及び消毒を徹底する。

(2) 宿泊について

宿泊を伴う移動をできるだけ避ける。必要な場合は、以下の点に注意して手配する。

ア チーム連絡先と宿泊先を大会主催者が把握する。ホテルの適切な場所に手指消毒ポイントを適切な備品と一緒に設置する。

イ 到着前と出発時に全室が徹底的に清掃されるように手配する。

ウ 可能な場合は、すべてのチームメンバーに対して個別の部屋を手配し、一緒に移動してきた参加者全員が同じ階に宿泊するようにする。

エ 可能な場合は、食事やチームミーティングの時は専用の個室で行うよう手配する。食事の用意やデリバリーを手配する際は、感染を予防し、対策を講じる。例えば、食事の時間をずらす、他の客と共有のビュッフェスタイルの配膳は避けるなど。

10 メディアの対応について

試合を取材するメディア（学校契約の写真業者を含む）に対して、次の内容を遵守するよう伝える。

(1) 取材者数を最小限の人数で要請し、会場入口で確認シート（別紙5）への記名を行う。

(2) 事前の健康観察において発熱や体調不良（発熱・咳・咽頭痛など）の場合は会場への入場を見合わせる。

(3) マスクを常時着用する。

(4) 取材する上で主催者が示す注意事項を遵守する。

(5) 取材は、大会会場外の指定の場所を基本とし、報道関係者とチーム関係者は2m以上離れることとする。

(6) できるだけ短い時間で取材を終える。